

CASBEE-建築(新築)2016年版

鳥取地家簡裁庁舎新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート 実施設計段階

配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
C 建築物の環境配慮計画								3.5
Q1 室内環境					0.40		-	3.4
1 音環境				3.2	0.15	-	-	3.2
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	3.0	-	
1.2 遮音				3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能				3.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音		床・天井に採用		4.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境				2.8	0.35	-	-	2.8
2.1 室温制御				2.6	0.50	-	-	
1 室温				2.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能				3.0	0.25	3.0	-	
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境				3.4	0.25	-	-	3.4
3.1 屋光利用				3.0	0.30	-	-	
1 屋光率				3.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口				-	-	3.0	-	
3 屋光利用設備				3.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策				4.0	0.30	-	-	
1 屋光制御		庇とブラインドの併用		4.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度		全般照明方式で500～1000Lx		4.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境				4.4	0.25	-	-	4.4
4.1 発生源対策				5.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		建材にF☆☆☆☆を全面的に採用		5.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気				3.6	0.30	-	-	
1 換気量		建築衛生法の1.2倍		4.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能				3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮		給排気取入開口間を8m以上確保している		4.0	0.33	3.0	-	
4.3 運用管理				4.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		全館禁煙		5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.4
1 機能性				3.7	0.40	-	-	3.7
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性				3.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画				3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性				4.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		天井高さ2.7m、執務室より眺望可能		4.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース				3.0	0.33	-	-	
3 内装計画		デザインコンセプトに沿った計画を実施		5.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理				4.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		内外装において充実した配慮あり		5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		スペース、機能性に充実した配慮あり		4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.1	0.30	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		劣化対策2等級(概ね50～80年)		4.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性				3.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		熱源種の二重化、地震対策を図っている		4.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-	
3 電気設備		非常用発電機設置、地下階浸水対策、電源車接続対応		4.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		通信手段の多様化、浸水対策の実施、ケーブルTV受信		4.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.3	0.30	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり			4.2	0.30	-	-	3.3
1 階高のゆとり		階高4m以上	5.0	0.60	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ			3.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	3.3
1 空調配管の更新性			2.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性		仮設スペースと更新時に機能停止が無い計画となっている	4.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.8
1 生物環境の保全と創出		地上面緑化率30%以上	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		街並み景観との調和、外構植栽による修景	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		外構部に地産材を採用、緑豊かな植栽計画及び見通しに配慮	4.0	0.50	-	-	3.3
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築環境の改善・向上			-	0.40	-	-	3.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.1
1 建物外皮の熱負荷抑制		高断熱化及び庇等による日射遮蔽(BPIM=0.75)	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.90	2.5	0.50	-	-	2.5
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	3.8
4.1 モニタリング			-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-	3.8
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.8
1 水資源保護			3.8	0.20	-	-	3.8
1.1 節水		節水コマ、節水型器具の採用	4.0	0.40	-	-	4.0
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.7	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		庁舎R階屋根面の雨水を利用	4.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.0	0.60	-	-	4.0
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	3.6
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		基礎部に高炉セメントを使用	5.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		高炉スラグ、再生砕石を使用	4.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		OAフロア、軽鉄間仕切り壁、パーティションを採用	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.20	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用		接着剤、木質建材、塗料に指定含有物質を含まない商品を採用	5.0	0.30	-	-	3.2
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率92%	3.3	0.33	-	-	3.3
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	3.2
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	3.2
3 交通負荷抑制		駐車台数の適正確保と共に周辺道路に渋滞等を起こさない計画	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	3.2
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	3.2
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	3.2
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	3.2
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		ガイドライン、取扱い規定をほぼ満足する	5.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	3.2